

場所 : オンライン

期間 : 2021. 11. 11~2022. 7. 27

参加者 : 西野 裕一、坂本 自啓、鄭 冬梅、呉 文華
蔺 素云、牧 丹、原田 愛子、西谷 恵里香
白石 大輝、大嶋 駿之如、片岡 加奈
藤田 友希、三谷 長人、手塚 久美子

2021 年度上海中医薬大学 オンライン中医婦人科臨床講座

■第1回 2021年11月11日	徐蓮薇先生
■第2回 2021年12月9日	嚴華先生
■第3回 2022年1月12日	楊紅先生
■第4回 2022年3月10日	湯倩珺先生
■第5回 2022年6月16日	沈明洁先生
■第6回 2022年7月27日	楊紅先生

■第1回 2021年11月11日

上海中医薬大学付属龍華病院主任 徐蓮薇先生

テーマ:「正気を本と為す」「血を要とする」陳氏婦人科疾病治療の経験

現代中医婦人科学の総論をご教授いただきました徐蓮薇先生は、中医学の専門病院の中でも一番ランクが高い龍華病院の婦人科主任医師を務められており有名な先生です。講義も非常に分かりやすく丁寧にお話しいただきました。

上海において100年受け継がれてきた陳氏婦人科流派の特徴は3つあるそうです。

1. 病気を治す際に患者の正気を本と為すことを強調する
2. 婦人科において血の調整を要とする
3. 婦人雑病の場合は肝の調整を中心とする

また、「三徳」に重きをおくことを大事にされていることを強調されました。

「心徳」心の中は患者さんが第一である

「口徳」コミュニケーションでは優しい言葉が求められ、言葉で治すこともある

「行為徳」医療行為は自分のモラルの基に行う

さらに各論では、慢性骨盤内炎症、不正出血、不妊治療、多嚢胞性卵巣症候群(PCOS)を取り上げ、それぞれの症例と陳氏婦人科による治療の考え方についてお話しくださいました。特にPCOSでは補腎活血法と周期調整法を組み合わせた治療方法で成果を上げているデータを示されました。

■第2回 2021年12月9日

上海中医薬大学付属曙光病院副主任 嚴華先生

テーマ: 卵巣機能低下における中医薬の応用

嚴華先生は以前日本に留学されていた時にもご縁がありました先生で、現在では、曙光病院の副主任としてご活躍されています。

40歳未満で卵巣機能が低下し閉経や月経不順がみられる早発卵巣不全(POF, POI)について詳しく解説いただきました。中医学にはPOIという病名はなく、症状によって「月経先期」「血枯」「経水早断」「月水先閉」「不妊」などに分類されます。多く見られる症状としては、おりもの量減少、イライラ、ホットフラッシュ、倦怠感、物忘れ、顔色が艶なく黄色、膣の乾燥、性欲低下、寒さに弱く手足が冷える、足腰が弱いなどがあり、これらから分析すると、肝腎陰虚証、肝鬱腎虚証、脾腎陽虚証に分類されます。それらの体質の特徴や適した漢方薬・生薬について詳しくご紹介いただきました。また漢方薬だけでなく、鍼灸治療や西洋治療との併用についても示され、改善症例についてもお話しくださいました。特にPOIでは早い段階からの卵巣機能の保護が重要とのことで、中医学が果たす役割の大切さについてまとめられました。

■第3回 2022年1月12日

上海中医薬大学付属市立中医薬病院産婦人科副主治医 楊紅先生

テーマ「多嚢胞性卵巣症候群の病因病機と治療方法」

楊紅先生は鍼灸師の資格もお持ちで、中西結合医療の中に、漢方薬だけでなく鍼灸治療も併用されて成果を上げていらっしゃいます。詳しく明確な講義で非常に勉強になりました。

多嚢胞性卵巣症候群(PCOS)の基本から、最新の中医学研究まで深くお話しくださいました。中医学ではPCOSを「腎虚」「脾虚」「肝鬱」の体質から主に考えます。中医治療では体質の鑑別が重要であり、さらに体質に合わせた漢方薬や生薬の選択についても詳しいアドバイスをいただきました。楊紅先生は特に生活養生についても詳しくご説明があり、重要視されています。基本的にBMIが高い方では減量することで回復が見込めるためです。運動や食事など具体的な指導方法のお話がありました。また鍼灸治療においてもツボのアドバイスをいただき、大変参考になりました。

■第4回 2022年3月10日

上海中医薬大学附属龍華病院副主任医師 湯倩珺先生

テーマ「子宮内膜症」

湯先生は、端的で分かりやすい講義で、資料も沢山ご準備いただきました。

子宮内膜症や子宮腺筋症は増加傾向にある疾患であり、治療が難しく再発率も高いため、中医学の役割は重要だと感じました。子宮内膜症は経絡から離れた血「離經之血」であり、「瘀血」のことです。中医学では病因病機の考え方が非常に重要だとお話しされていました。子宮内膜症では「気血」の変化によって起こります。そのため、基本の治療戦略としては「行気活血、化瘀止痛」が取られます。「瘀血」は治りにくく、病巣の範

困も広いため、「瘀血」を引き起こす要因と合わせて体質改善をしていくため、体質の見極めが重要とのことでした。良く用いられ、先生がお勧めされる生薬についても詳しく学ぶことができました。

■第5回 2022年6月16日

上海中医薬大学付属曙光病院副主任 沈明洁先生

テーマ「習慣性流産のための中医治療」

沈先生は上海中医薬大学の「金メダル教師」の称号も獲得された先生で、非常に熱心に講義をしてくださいました。私たちの見解も確認し、交流する参加型の講義です。

テーマは反復性の流産についてという非常に難しい分野ですが、先生は特に力を入れていらっしゃるよう非常に詳しく学ぶことができました。中国では3回以上の流産で定義されるようですが、中医では定義はないため、1回でも流産されたら全力でサポートする、流産は非常につらく悪影響のあることとおっしゃられ、とても印象に残りました。体質では「気血不足」が多く、弱っている体質を強化していきます。ただ流産しそうになってからでは間に合わず、妊娠前にあらかじめ身体作りしておく重要性もお話しされており、体質改善の重要性を改めて感じました。また、妊娠中に「活血薬」を使用することに際して、議論が上がりますが先生も取り上げられました。古典でも張仲景は妊娠中に活血薬を用いる第一人者であり、必要性がある際には用い、7割程度の治療で心掛けましようと言われました。

■第6回 2022年7月27日

上海中医薬大学付属市立中医薬病院産婦人科副主治医 楊紅先生

テーマ「免疫性不妊における病因病機および治療方法」

楊紅先生は2回の担当をお引き受けくださいました。お忙しい中にもかかわらず、本当に感謝いたします。一人で漢方と鍼灸と西洋の治療をされており、非常に詳しく勉強になりました。

免疫性不妊は原因不明となりがちな病因で、不妊症の方の4~5割を占めるとも言われているそうです。一番多いのは抗精子抗体で、他にも子宮内膜症の方にみられる抗子宮内膜抗体、習慣性流産でみられる高リン脂質抗体、行卵巣抗体などがあります。免疫不妊は西洋医学の治療が確立されておらず、中医学でできる役割があります。中医学でも明確なカテゴリーはありませんが、不妊症であり「腎虚」「脾虚」「肝鬱」「湿熱瘀血」を基本に考えます。また中国では生薬の研究が進んでおり、免疫を下げる効果のある生薬が分かっており、用いられているそうです。実際に先生が担当された症例についても紹介があり、中西結合治療を行い、抗体価が下がり妊娠された方を3例解説していただき、非常に勉強になりました。